

# 『水産業クラウドWG』 活動計画書(案)

日本アイ・ビー・エム株式会社

# 1.WGの概要

## 目標

- ・ICT、クラウドを活用した新しい水産業ビジネス・モデル (スマートフィッシュ) を構築し、日本の水産業の高収益化、ブランド競争力の向上に資する。
- ・消費者にとって安心・安全な「水産物」の流通、提供の仕組みを検討し、具現化する。

## 課題認識

水産業は、日本の沿岸部地域における重要産業であり、長い歴史の中で日本固有の食文化を支えてきた産業である。近年の食文化の多様化や震災の影響が残る状況において、水産業の復興及び強化の実現が求められている。

## 具体的検討項目

### STEP1:情報収集

- ・漁業関係者、水産加工会社、物流会社、海外協力団体等から、現状の業務状況と課題をヒアリングしまとめる。あわせて、消費者からの魚文化への意見・要望の情報収集を行う。

### STEP2:課題検討

- ・ヒアリング結果をもとに、クラウドサービスを利用する領域と方針を検討する。
- ・サービス普及推進の方法について検討する。

### STEP3:具体化

- ・ICT、クラウドを活用したスマートフィッシュ実現のための実証事業の検討
- ・次世代水産業ビジョンの策定

## 導入効果(目標)

- ・日本の水産業における高収益化、ブランド競争力の向上を通じて、経済の活性化を図る。

## 2. WGの詳細

### 関連要素技術、サービス、システム

- ・普及促進、ビジネスモデル等の検討
- ・ICTを活用したSCMの構築、トレーサビリティのための仕組み、技術的インターフェースの検討等

### グローバル化関連

最先端のICT、クラウドを活用した水産業ビジネスモデルを具現化し、日本の水産業の国際競争力を高め、日本ブランドの強化を図る。

### 実施体制、役割分担

幹事

日本アイ・ビー・エム株式会社

事務局

(検討中)

メンバー

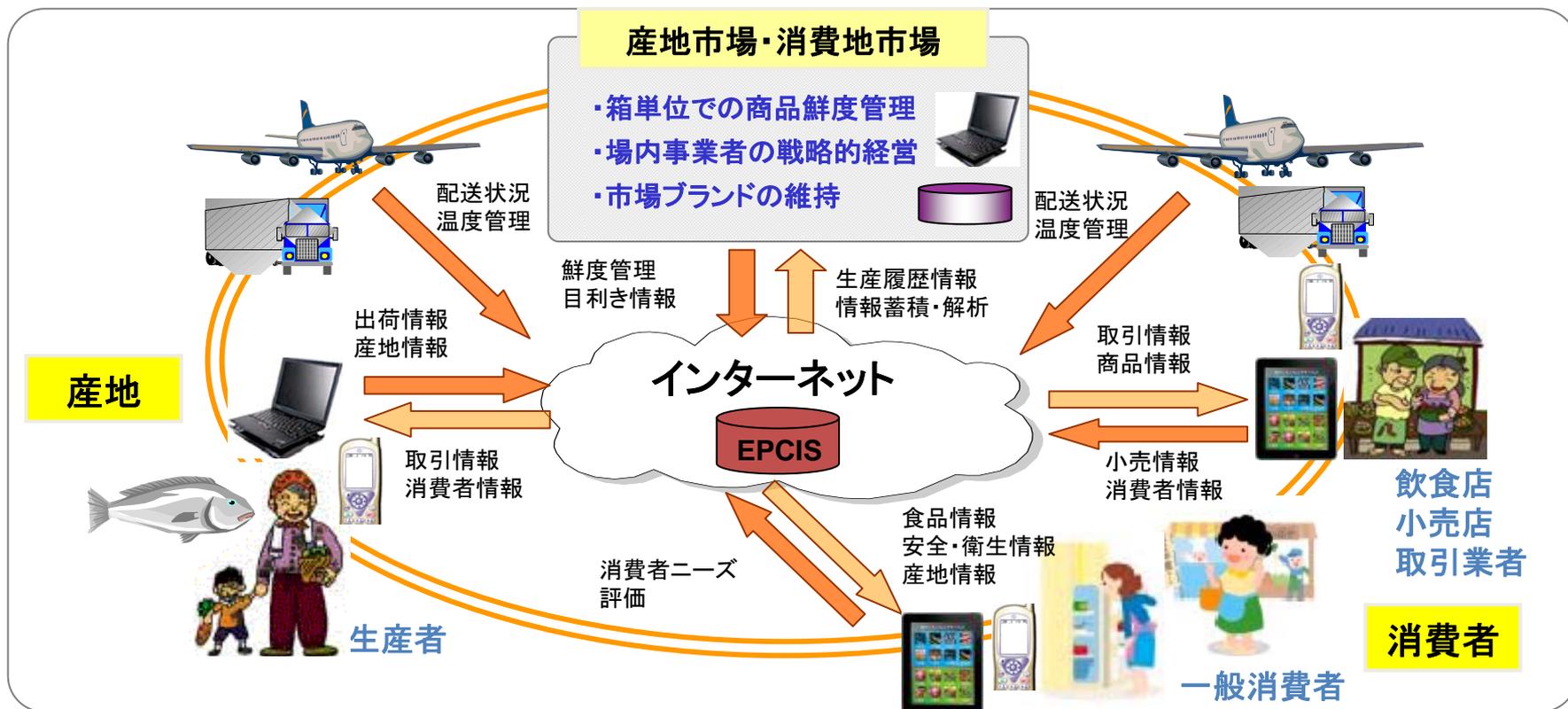
漁協関係者、水産加工会社、物流会社、大学、自治体、関連団体、クラウドサービス企業等

### 期待される成果と報告内容

- ・ ICTによる水産業ビジネスモデルの提言と、そのために必要な制度改革や規制緩和の提案
- ・ 具体的なクラウドサービスの適用範囲と技術的検討
- ・ 実証事業による検証の提案

### 3. ゴールイメージ (1)

#### - スマートフィッシュ・ネットワーク



#### 関連事業者の支援サービス

- ・情報発信サービス
- ・決済サービス

#### ヒト、モノすべてがつながるネットワーク

- ・ソーシャルネットワーク (ヒトのつながり)
- ・商品の荷動きや保冷状況の見える化 (モノのつながり)

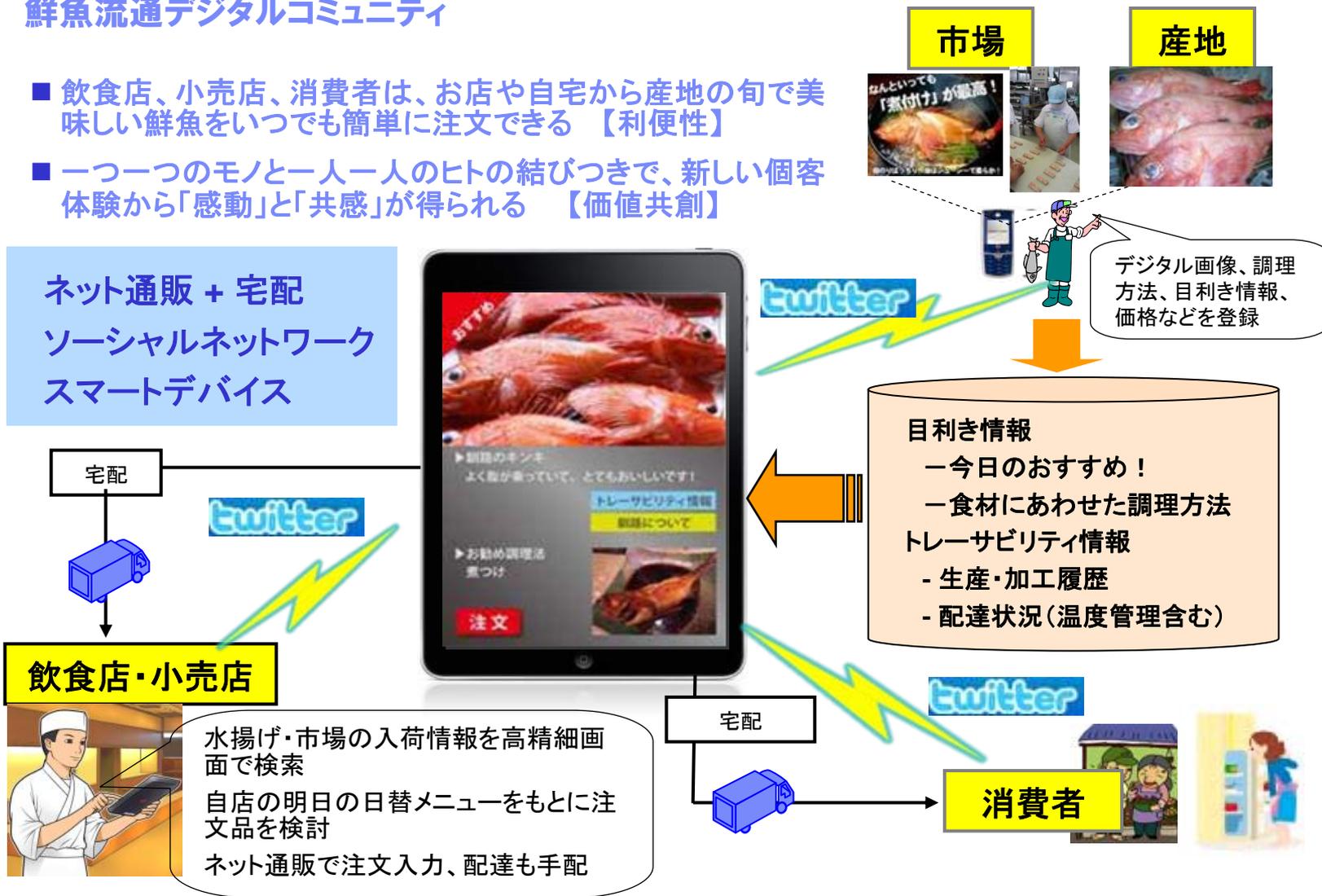
#### 「安心・安全」の実現

- ・HACCP管理システム
- ・トレーサビリティシステム

### 3. ゴールイメージ (2)

#### 鮮魚流通デジタルコミュニティ

- 飲食店、小売店、消費者は、お店や自宅から産地の旬で美味しい鮮魚をいつでも簡単に注文できる 【利便性】
- 一つ一つのモノと一人一人のヒトの結びつきで、新しい顧客体験から「感動」と「共感」が得られる 【価値共創】



## 4. スケジュール

初年度案(次年度以降はWGにて検討実施)

### 全体像

